

授業科目	看護学概論			
担当教員	副学院長 佐川 明美 ／ 病院に看護師として13年、看護管理者として6年勤務			
履修時期	1学年 前期	単位数・時間	1単位 30時間	
授業目標	1. 看護活動の本質を理解する。 2. 看護師の責務から看護の役割と機能を理解する。 3. 看護の法と責任をもとに看護倫理を理解する。 4. 看護活動の場を理解し、保健・医療・福祉における看護師の役割を理解する。			
授業計画	回	事前学習	内容	方法
	1	ワークブックで学ぶナイチングール看護覚え書	看護学概論で何を学ぶのか 看護の本質 看護とは何か考える 私の考える看護観	講義 VTR学習
	2	看護の基本となるもの	看護の主要概念 看護の歴史 ナイチングール/ヘンダーソン/マズロー	講義 GW
	3		看護の対象である人間とは ホメオスタシス、ストレス、欲求、ライフサイクルと発達課題、生活者	講義 GW
	4		健康の概念・健康観 健康の定義 WHOの健康・ウェルネスの概念	講義
	5		環境の概念・人間に及ぼす影響	講義
	6		看護の定義 看護職能団体による看護の定義 看護業務基準	講義 GW
	7	看護倫理の基本	看護倫理の基本 医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理	講義
	8		倫理綱領と倫理の原則と看護師の役割（説明責任・倫理的配慮・権利擁護（アドボカシー）、エンパワメント）看護者の倫理綱領 条文1～7	講義
	9		倫理綱領と倫理の原則 看護者の倫理綱領 条文8～15	講義
	10		医療における倫理的ジレンマ	
	11		看護職の養成制度/教育キャリア開発	講義 GW
	12	実践に生かす看護理論 19	看護理論家とその考え方 ウィーデンバッグ/オーランド/トラベルビー他	講義
	13		看護理論家とその考え方 ペプロウ/オレム/ロイ看護理論家とその考え方	講義
	14		ケアとは/看護におけるケア 看護実践とその質保証に必要な要件	講義
	15		終講試験・まとめ	
テキスト 参考文献	系統看護学講座 専門Ⅰ 看護学概論 基礎看護学①, 医学書院 ヴァージニア・ヘンダーソン：看護の基本となるもの, 日本看護協会出版会 徳本弘子：ワークブックで学ぶナイチングール看護覚え書, メヂカルフレンド社 城ヶ端初子：実践に生かす看護理論 19, サイオ出版 坪倉繁美：看護倫理の基本, サイオ出版			
授業方法	講義・GWを中心として行う			
評価方法	終講時に筆記試験を実施する 筆記試験90点、課題点10点（提出期限が守れない、内容不足の場合は総合点より3点減点）			
履修上の アドバイス	グループ学習を多く取り入れているので、積極的な姿勢で臨むこと			

授業科目	看護共通基本技術Ⅰ（コミュニケーション・安全・安楽・感染予防）				
担当講師	専任教員 大谷聖子／病院に看護師として14年勤務				
履修時期	1学年 前期	単位数・時間		1単位 24時間	
授業目標	1. 看護におけるコミュニケーションの意義と方法を理解する。 2. 看護における対人関係構築のための基本的コミュニケーション技術を習得できる。 3. 看護における安全の意義と安全を点検する側面を理解する。 4. 安楽を確保する意義を理解し、基本的な援助技術を習得する。 5. 感染予防の意義とその対策を理解し、方法を習得する。				
授業計画	回	事前学習	内容	方法	事後学習
	1 ～ 2	参考文献の 感想をまと める	1. コミュニケーション 1) コミュニケーションとは 2) 看護理論とコミュニケーション 3) 看護とコミュニケーション 4) コミュニケーションの基本姿勢	講義 演習	
	3		1. 看護における安全 1) 安全の意義 2) 安全を点検する側面 (ヒューマンエラー/看護事故の構造/事故防止対策) 2. ヒヤリハット(分析方法/ヒヤリハット報告書の実際)	講義 演習	
	4	調べ学習 ・用語の定義 ・感染源 ・芽胞	1. 感染と感染予防策の基礎知識 (スタンダードプリコーション/感染経路別予防策) 2. 感染予防における看護師の責務と役割 3. 感染源への対策(洗浄/滅菌/消毒法)	講義	
	5	手洗い、防護 用具の着脱 のDVD 視聴	4. 感染経路への対策 (手洗い/個人防護用具/隔離法/感染性廃棄物の取り扱い/ 針刺し事故防止) 5. 演習 1) 手洗い、速乾性擦式手指消毒 2) 防護用具の着脱(手袋/ガウン/エプロン)	演習	手指衛生 と防護用 具着脱の 練習
	6	滅菌物の取 り扱いの DVD 視聴	3) 滅菌物の取り扱い: 無菌操作 (滅菌物器材の確認方法/滅菌パックの開き方/镊子の取り 扱い/綿球の渡し方・ガーゼの取り出し方/滅菌手袋の着用)	演習	無菌操作 の練習
	7 ～ 8	体位につい て調べる VTR 視聴	1. 安楽確保の援助 1) 安楽の意義 2) 安楽な体位保持 3) ボディメカニクス 4) リラクゼーション・精神的安寧 (呼吸法/マッサージ・指圧/安楽促進法) 2. 体温管理・保温の援助(冷罨法・温罨法)	講義 演習	
	9	VTR 視聴	3. 冷罨法・温罨法の演習	講義 演習	
	10	生活の中 での自分の事 例を記録	3. プロセスレコード 1) プロセスレコードとは/分析のしかた 2) 自分の体験をプロセスレコードに分析	講義 演習	分析後 のまとめ
	11		4. ロールプレイ 1) ロールプレイとは 2) 事例に基づき役割を演じ、分析する	講義 演習	ロールプ レイの分 析
	12		終講試験・まとめ		
テキスト	1. 新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ, メヂカルフレンド社 2. 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術, 医学書院 3. 看護の基本となるもの, 日本看護協会出版会				
参考文献	1. 伊藤守: この気持ち伝えたい, ディスカバー社 2. 大森武子: 仲間とみがく看護のコミュニケーション・センス, 医歯薬出版				
使用教材	医療器材(镊子, ガーゼ, 綿球, 滅菌手袋, 速乾性擦式手指消毒薬, アイレーショングーソン, フラスチックエフロソ)				
授業方法	講義・演習を中心に行う				
評価方法	終講試験(90点)、課題(10点)で評価する 課題提出遅れは総合点から3点減点とする				
履修上の アドバイス	事前、事後学習を必ず行い、提出期限を守ること 演習は、グループ間で協力して行うこと				

授業科目	看護共通基本技術Ⅱ(ヘルスアセスメント)			
担当講師	専任教員 柳沼 美穂子 / 病院に看護師として15年勤務			
履修時期	1学年 前期～後期	単位数・時間	1単位 30時間	
授業目標	1. 対象の健康状態を評価する意義と方法を理解する。 2. フィジカルアセスメントの基本技術を習得する。			
授業計画	事前学習	内容	方法	事後学習
	1	1. 看護におけるヘルスアセスメント	講義	
	2	2. フィジカルアセスメントの基本 1)一般状態のアセスメント(バイタルサイン) ①体温 ②脈拍	講義 演習	技術練習
	3	③呼吸 ④血圧 ⑤意識状態	講義 演習	技術練習
	4	⑥バイタルサイン測定の実際【演習】	演習	技術練習
	5	⑦バイタルサイン測定【演習チェック】 ・事例に基づいたバイタルサイン測定実施 ・血圧測定(聴診法)の実際 ・バイタルサインプレテスト	演習	演習チェック後の振り返り
	6	⑧バイタルサイン測定【技術試験】	試験	技術振り返り
	7	2) 一般状態のアセスメント(身体計測)	講義 演習	
	8	事前レポート・体験 解剖生理学	3) フィジカルアセスメントにおける基本技術 【問診/視診/触診/打診/聴診】	講義 演習
	9	事前レポート・体験 解剖生理学	3. 系統的なフィジカルアセスメントの実際 1) 体表面のアセスメント【皮膚・爪・リンパ他】	講義 演習
	10	事前レポート・体験 解剖生理学	2) 感覚系・脳神経系のアセスメント 【眼底の視診・鼓膜の視診】	講義 演習
	11	事前レポート・体験 解剖生理学	3) 運動系のアセスメント	講義 演習
	12	事前レポート・体験 解剖生理学	4) 呼吸器系のアセスメント 問診 視診(前胸部/背面/側面) 触診(胸郭拡張度/音声伝導) 打診(背面打診:横隔膜の呼吸性移動の確認) 聴診(正常呼吸音/異常呼吸音)	講義 演習
	13	事前レポート・体験 解剖生理学	5) 腹部・消化器系のアセスメント 問診 触診 打診 聴診(腸蠕動音)	講義 演習
	14	事前レポート・体験 解剖生理学	6) 循環器系のアセスメント 問診 視診(前胸部/チアノーゼ/心尖拍動) 触診(心尖拍動)聴診(I・II音/異常心音)	講義 演習
	15		4. 精神・社会的状態のアセスメント 5. セルフケア能力のアセスメント	講義
テキスト	1. 新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護学技術Ⅰ, メヂカルフレンド社 2. 任和子/秋山智弥【編集】:根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術, 医学書院 3. ヴァージニア・ヘンダーソン著:看護の基本となるもの, 日本看護協会出版会			
参考文献	レビューブック, MEDIC MEDIA・看護が見える vol.3 フィジカルアセスメント, MEDIC MEDIA 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①, 医学書院			
使用教材	聴診器、水銀レス血圧計、電子血圧計、体温計、診断機器、フィジコさん			
授業方法	講義・演習を中心として行う			
評価方法	バイタルサイン測定技術試験(20点)、レポート(8点×7回)、小テスト(8点×2回)、グループ貢献点(8点)の総合点を科目評価とする。提出物の遅れは総合点から2点減点、期限内の提出ができなかった場合は総合点より3点減点とする。			
履修上のアドバイス	解剖生理学を復習しながら進めていくため、事前学習を計画的に行い授業に臨むこと バイタルサインの測定は技術試験があるため、グループで練習に取り組むこと			

授業科目	暮らしを支える看護技術Ⅰ（環境、活動・休息）			
担当講師	主任専任教員 和知 綾乃 ／ 病院に看護師として14年勤務			
履修時期	1学年 前期		単位数・時間	1単位 30時間
授業目標	1. 健康を促進させる療養環境の諸要素と生活環境調整の意義を理解する。 2. 環境を整える基本的な技術を習得する。 3. 活動・休息の意義を理解し、基本的な援助技術を習得する。			
授業計画	回	事前学習	内容	方法
	1		1. 環境の諸要素とその調整	講義
	2	DVD 視聴	2. 病室と病床の環境調整 1) ベッドメーキング 2) 環境整備	講義 演習
	3			技術練習
	4	DVD 視聴	3. 活動・休息の援助技術 1) 活動と休息 2) 活動のアセスメント	講義 演習
	5	DVD 視聴	3) 運動機能の維持・回復のための援助 ①関節可動域訓練（自動・他動運動）	講義 演習
	6	DVD 視聴	4) 運動機能の低下した人の援助 ①体位変換 ②車椅子・ストレッチャーでの移送 ③座位保持・起立動作の援助 ④歩行の援助	講義 演習
	7	DVD 視聴		技術練習
	8			
	9	プロジェクト準備 技術練習	車椅子移動・移送の演習チェック ストレッチャー移動・移送の演習チェック	プロジェクト 演習
	10	技術練習	車椅子移動・移送の技術試験	試験
	11	DVD 視聴	4. 臥床患者のリネン交換	講義 演習
	12	プロジェクト準備 技術練習	臥床患者のリネン交換演習チェック	プロジェクト 演習
	13		5. 安静保持の援助 6. 睡眠の援助	講義
	14	技術練習	臥床患者のリネン交換の技術試験	試験
	15		終講試験・まとめ	試験
テキスト	新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ, メヂカルフレンド社 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術, 医学書院 看護の基本となるもの, 日本看護協会出版会			
参考文献	レビューBOOK, MEDIC MEDIA 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学, 医学書院 イラストでまなぶ生理学, 医学書院			
使用教材	1. リネン一式 2. 車椅子、ストレッチャー、杖			
授業方法	講義、演習			
評価方法	筆記試験（50点）、技術試験（40点）、課題（10点）で評価する 課題提出期限内に提出できなかった場合は総合点から3点減点とする			
履修上のアドバイス	授業方法は、講義と技術演習を中心なので、教室と実習室を使用しての授業になります。スムーズに技術演習ができるよう、事前学習や課題に取り組み、準備をして臨みましょう。また、技術の習得には自己学習（何度も練習すること）が必須です。空き時間を有効に使い計画的にグループメンバーで協力して行いましょう。			

授業科目	暮らしを支える看護技術Ⅲ（清潔、衣生活）					
担当教員	専任教員 大谷聖子 ／ 看護師として14年勤務 専任教員 坂本真理 ／ 看護師として14年勤務					
履修時期	1学年 前期～後期		単位数・時間	1単位 30時間		
授業目標	1. 清潔の意義と衣生活を理解し、基本的な援助技術を習得する。					
授業計画	回	事前学習	内容	方法	担当	事後学習
	1	講義資料予習	1. 身体の清潔の援助の意義と目的 1) 整容	講義 演習	大谷	
	2	DVD 視聴	2. 入浴・シャワー浴・部分浴 1) 手浴、足浴、陰部の清潔の目的と援助	講義		技術練習
	3	DVD 視聴	3. 入浴・シャワー浴・部分浴の演習 (入浴・シャワー浴・陰部洗浄・手浴・足浴)	演習		技術練習
	4	技術練習	4. 手浴・足浴演習チェック *陰部洗浄はおむつ交換技術と一緒に実施	演習		演習チェック 振り返り
	5	DVD 視聴	5. 衣生活の援助の意義と目的 1) 寝衣交換の援助 2) 全身清拭の目的と援助	講義		技術練習
	6	技術練習	6. 全身清拭・寝衣交換演習	演習		援助計画の立案
	7	技術練習 アレルギー準備	7. 全身清拭・寝衣交換演習チェック ※寝衣交換は点滴・ドレーン等を留置している患者で実施する	演習 プレテスト		演習チェック 振り返り
	8	技術練習	8. 全身清拭・寝衣交換技術試験 ※寝衣交換は点滴・ドレーン等を留置している患者で実施する	技術 試験		援助計画評価 技術試験 振り返り
	9	DVD 視聴	9. 口腔の清潔の目的と援助	講義 演習	坂本	技術練習
	10	技術練習	10. 口腔ケア演習チェック *食事介助技術と一緒に実施	演習		演習チェック 振り返り
	11	DVD 視聴	11. 頭皮の清潔の目的と援助 1) 洗髪演習（洗髪車、洗髪プール）	講義 演習		技術練習
	12	技術練習	12. 洗髪演習	演習		技術練習
	13	技術練習 アレルギー準備	13. 洗髪演習チェック	演習 アレルギー		演習チェック 振り返り
	14	技術練習	14. 洗髪技術試験	技術試験		技術試験振り 返り
	15		終講試験・まとめ	試験	大谷 坂本	
テキスト	1. 新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ, メヂカルフレンド社 2. 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術, 医学書院 3. 看護の基本となるもの, 日本看護協会出版会 4. イラストでまなぶ生理学, 医学書院					
使用教材	<洗髪>モデル人形、洗髪車、洗髪プール <陰部洗浄>装着型陰部モデル（男性・女性） <口腔ケア>口腔ケアモデル <全身清拭・寝衣交換>モデル人形					
授業方法	講義・演習形式、演習チェックを行う					
評価方法	筆記試験（60点）、技術試験（40点） 課題提出期限内に提出できなかった場合は総合点から3点減点とする					
履修上のアドバイス	授業方法は、講義と技術演習が中心なので、教室と実習室を使用しての授業になります。スムーズに技術演習ができるよう、事前学習や課題に取り組み、準備をして臨みましょう。また、技術の習得には自己学習（何度も練習すること）が必須です。空き時間を使い計画的にグループメンバーで協力して行いましょう。					

授業科目	診療に伴う看護技術Ⅰ（与薬／採血／輸血）					
担当講師	専任教員 柳沼美穂子／病院に看護師として15年勤務 専任教員 須藤 美香／病院に看護師として15年勤務					
履修時期	1学年 前期～後期		単位数・時間	1単位 30時間		
授業目標	1. 与薬・採血における意義を理解し、基本的な援助技術を習得する。					
授業計画	回	事前学習	内容	方法	担当	事後学習
	1		1. 与薬に関する基礎知識 1) 薬物療法の理解 2) 薬物療法における看護師の役割 3) 薬物療法を受ける患者の援助 【演習】薬剤の管理	講義 演習	柳沼	
	2		2. 各与薬の援助方法 1) 経口与薬 2) 経皮外用薬の皮膚・粘膜適用 【演習】薬剤の確認/パッカル錠・舌下錠の与薬	講義 演習		
	3	DVD 視聴	3) 点眼・点入法 4) 吸入法 5) 点鼻・点耳法 【演習】坐薬挿入(モデル)/ネブライザー	講義 演習		
	4	DVD 視聴	6) 注射法 ①注射法の基礎知識 【演習】注射器・針の取り扱い方/アンプルカット/薬液(アンプル・バイアル)の吸い上げ方	講義 演習	須藤	注射器・針の取り扱い/薬液の吸い上げ方の技術練習・確認
	5	事前 課題	②皮下注射 ③皮内注射 ④筋肉内注射 【演習】部位選定/注射の実際(モデル)	講義 演習		注射部位の確認/各注射法技術練習
	6	DVD 視聴	⑤静脈内注射 ⑥点滴静脈内注射 【演習】部位選定/駆血帯の使い方/輸液セット・三方活栓の使い方/注射の実際(モデル)/固定法/速度調節・管理/ポンプの使い方	講義 演習		各注射法技術練習/滴下数計算課題
	7	DVD 視聴	7) シリンジポンプ・輸液ポンプの使い方 【演習】ポンプの使い方/観察	講義 演習	柳沼	
	8	DVD 視聴	3. 採血 1) 検査の種類 2) 採血の種類 【演習】部位選定/採血ボーダーによる静脈血採血	講義 演習	須藤	採血技術練習
	9	DVD 視聴	4. 輸血 1) 目的 2) 種類・適応 3) 副作用 4) 手順 【演習】輸血セットの取り扱い、輸血の管理	講義 演習	柳沼	
	10	DVD 視聴	【演習チェック】筋肉内注射/静脈血採血	演習C	須藤	演習Cの振り返り
	11	DVD 視聴			柳沼 須藤	
	12					
	13	DVD 視聴				
	14					
	15		終講試験・まとめ	試験		
テキスト (参考文献)	1. 新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ, メヂカルフレンド社 2. 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術, 医学書院 (レビュー・ブック, MEDIC MEDIA)					
使用教材	<採血>静脈採血注射モデル、かんたんくん、装着式採血シミュレーター <注射>装着式筋注パッド、きんちゅうくん、でんちゅうくん、筋肉注射モデル、殿筋注射説明模型、殿部筋肉内注射モデル					
授業方法	講義、演習、演習チェック					
評価方法	終講試験(90点)、課題の提出状況(10点) 課題提出忘れは総合点から3点減点とする					
履修上の アドバイス	授業方法は、講義と技術演習が中心なので、教室と実習室を使用しての授業になります。スムーズに技術演習ができるよう、事前学習や課題に取り組み、準備をして臨みましょう。 また、技術の習得には自己学習(何度も練習すること)が必須です。空き時間を有効に使い計画的にグループメンバーで協力して行いましょう。特にこの技術は、間違うとそのまま医療事故につながる取り返しのつかない技術であることを認識し、正しい知識と技術を身につけましょう。					

授業科目	臨床判断技術Ⅰ（看護記録、報告、看護過程、看護診断）							
担当講師	主任専任教員 和知綾乃／病院に看護師として14年勤務 専任教員 知々田綾／病院に看護師として26年勤務							
履修時期	1学年 後期		単位数・時間	1単位 30時間				
授業目標	1. 看護記録の意義と方法を理解する。2. 看護過程（看護診断）の意義と方法を理解する。							
授業計画	回	事前学習	内容	方法	担当	事後学習		
	1	看護記録とは	I. 看護記録 1. 法的位置づけ 2. 目的・意義 3. 構成要素 4. 記載・管理の留意点	講義	和知綾乃	記録から看護記録を考える		
	2	看護過程とは	II. 報告 1. 目的・意義 2. 方法・留意点 3. 医療事故と看護記録 III. 看護過程 1. 看護過程の意義と構成要素 2. 基盤となる考え方	講義		事例の情報整理		
	3	アセスメントとは	3. アセスメント 1) アセスメント 2) 情報収集・整理 3) ゴードンの機能的健康パターン	講義		事例のアセスメント		
	4	情報の意味の検討	3) 情報の整理の実際 4) 情報の意味の検討（アセスメント）	講義		事例のアセスメント		
	5	アセスメントの方法	演習) アセスメントの実際①② 事例を用いて機能的健康パターンの枠組みに沿ってアセスメントの実施	講義 演習	知々田綾	看護診断名の確認		
	6							
	7	事例に基づいた知識の確認	演習) 対象の症状や状態・状況を明らかにするシミュレーション	演習				
	8	関連図とは	4. 問題仮説の推論・統合 1) 全体の把握 2) 関連図 5. 看護診断（NANDA-I） 1) 定義・診断指標・危険因子 2) ハイリスク群・関連する状態 3) 優先順位	講義				
	9	看護診断とは	4) 看護診断の作成 5) 看護診断作成の実際	講義				
	10	計画立案とは	6. 計画 1) 目標設定 2) 計画の立案	講義				
	11	看護記録とは	7. 実践・評価 1) SOAP 2) フローシート 3) 評価・修正 4) 経過記録の実際 5) 評価・修正の実際	講義				
	12	形態機能学	演習) 関連図	講義 演習				
	13		演習) 看護診断					
	14		演習) 経過記録の書き方					
	15		終講試験・まとめ		和知綾乃 知々田綾			
テキスト	1. 新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護学技術Ⅰ, メヂカルフレンド社 2. ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント, ヌーベルヒロカワ 3. NANDA-I看護診断（定義と分類）2021-2023, 医学書院 4. とんでもなく役に立つ 検査値の読み方, 照林社							
参考文献	1. ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断, ヌーベルヒロカワ 2. 疾患別看護過程の展開, 学研							
授業方法	講義、演習							
評価方法	筆記試験（90点）、課題（10点）で評価する 課題提出期限内に提出できなかった場合は総合点より3点減点とする							
履修上のアドバイス	看護過程は、患者により良い看護を提供するための大切な技術です。そのため、自主的に自己学習や演習に臨み練習を重ねることが必要になります。この技術は、看護を知る実習Ⅱから実習で3年間実施しますので、看護過程の段階一つ一つ確実に理解して学習を進めましょう。							

授業科目	看護研究Ⅰ		
担当講師	副学院長 佐川 明美 ／ 病院に看護師として13年、看護管理者で6年勤務		
履修時期	2学年 後期	単位数・時間	1単位 15時間
授業目標	1. 看護研究の意義や目的及び研究のプロセスを理解する。		
授業計画	回	内容	方法
	1	看護研究とは ○看護研究とは ○看護研究の目的 ○研究課題の明確化	講義 演習
	2	文献のクリティック 看護研究のプロセス ○文献検索・文献検討 ○研究テーマの決定	講義 演習
	3	看護研究のプロセス ○研究計画書の作成	講義 演習
	4	看護研究のプロセス ○倫理的配慮	講義 演習
	5	看護研究のプロセス ○看護研究の種類 ○データの収集方法	講義 演習
	6	看護研究のプロセス ○データの分析方法	講義 演習
	7	看護研究のプロセス ○抄録・論文の構成と書き方 ○研究成果のまとめ	講義 演習
	8	筆記試験 研究成果の発表	
テキスト	前田樹海：はじめての看護研究、ナツメ社。		
参考文献	高谷修：看護学生のためのレポート・論文の書き方、金芳堂。		
	足立はるゑ：看護研究サポートブック（改訂4版）、メディカ出版。		
	及川慶浩：はじめての看護研究～計画書の書き方編～、メディカ出版。		
	及川慶浩：はじめての看護研究～統計学編～、メディカ出版。		
	及川慶浩：はじめての看護研究～アンケート調査編～、メディカ出版。		
	及川慶浩：らくらく統計ナース Expert、メディカ出版。		
授業方法	講義・演習形式		
評価方法	筆記試験 50点		
	演習および事前準備：50点（事前課題2点 研究計画書・同意書13点 発表35点）		
履修上のアドバイス	看護研究は専門職として行うことが求められており、卒業後に臨床で活用していくものです。そのため、看護研究に必要な基礎的知識や基礎的技術は看護基礎教育において、習得しておく必要があります。		
	看護研究Ⅱでは、看護研究を実際にを行い、看護研究Ⅰで学んだ内容をもとに看護研究のプロセスを実際に経験します。そのため、看護研究Ⅰでは講義を受けるにあたり、事前学習と事後学習を確実に行う必要があります。		

授業科目	看護研究Ⅱ			
担当講師	教務主任 薄井美智子 ／ 病院に看護師として14年勤務			
履修時期	3学年 前期		単位数・時間	1単位 30時間
授業目標	1. 研究プロセスに沿って調査研究を実施する。			
授業計画	回	事前学習	内容	方法
	1	文献検索の方法	講義・演習オリエンテーション 看護研究プロセス ・ 文献検索・文献検討	講義 演習
	2		看護研究プロセス ・ 文献検索・文献検討 ・ 研究テーマの決定	演習
	3		看護研究プロセス	演習
	4		・ 研究計画書作成	
	5 ～ 12		看護研究のプロセス ・ 質問紙作成 ・ 施設への依頼文書作成 ・ 個人への依頼文書作成 ・ データ収集 ・ データ分析 ・ 抄録作成 ・ 論文作成	演習
	13		看護研究のプロセス ・ パワーポイント作成	演習
	14		・ 発表原稿の作成 ・ 論文作成	
	15		看護研究のプロセス ・ 発表会	公開授業
テキスト	前田樹海：はじめての看護研究, ナツメ社.			
参考文献	古橋洋子：基本がわかる看護研究ビギナーズ NOTE, 学研			
授業方法	講義・演習形式			
評価方法	研究プロセスについて(ループ・個人)評価表(100点)にもとづき評価を行う。			
履修上のアドバイス	看護研究は専門職として必要不可欠なものです。看護研究Ⅱは、看護研究Ⅰで学んだ内容を基盤として、実際に研究プロセスを経験していきます。看護研究Ⅰで研究に必要な知識・技術を学んでいるため、看護研究Ⅱを学ぶ前に看護研究Ⅰで学んだ内容の振り返りをしておくことが重要になります。看護研究Ⅱはグループごとの演習を中心に進めています。グループメンバーの一員として積極的に参加しましょう。			

授業科目	成人看護学概論（対象理解・看護の機能と役割）			
担当講師	専任教員 須藤美香／病院に看護師として15年勤務			
履修時期	1学年 前期		単位数・時間	1単位 20時間
授業目標	1. 成人期における対象を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解できる。 2. 成人の生活について理解できる。 3. 成人を取り巻く環境と、生活と健康をまもるシステムについて理解できる。 4. 保健・医療・福祉の動向から成人各期の健康課題を理解できる。 5. 成人への看護アプローチの基本について理解できる。 6. 経過別の考え方が理解できる。			
授業計画	回	事前学習	内容	方法
	1 ・ 2	「各発達段階の特徴」	1. 成人看護の対象理解 1) 成人期の年齢区分 2) 成人各期の発達段階と発達課題 3) 成人各期の特徴と健康問題 ①青年期②壮年期・中年期③高齢期	講義 GW
	3	「成人のライフスタイルの特徴」	2. 成人の生活 1) 成人の生活様式の特徴 2) 家族形態と機能	講義 GW
	4 ・ 5	「保健・医療・福祉にかかる施策」	3. 生活と健康 1) 社会状況の変化 2) 成人を取り巻く環境と生活から見た健康 3) 生活と健康をまもりはぐくむシステム ①保健・医療・福祉システムの概要 ②保健・医療・福祉システムの連携 ③地域・在宅への継続医療と看護	講義 GW
	6 ・ 7	「生活行動がもたらす健康問題とその予防」	4. 保健・医療・福祉の動向と健康課題 1) 生活習慣病に関連する健康課題 2) 職業に関連する健康課題 3) ストレスに関連する健康課題	講義 GW 発表
	8 ・ 9	「大人の学習」	5. 成人への看護アプローチの基本 1) 生活のなかで健康行動を生みはぐくむ援助 2) 症状のセルフマネジメント 3) 健康問題をもつ大人と看護師の人間関係 4) 人々の集団における調和や変化を促す看護アプローチ 5) チームアプローチ 6) 看護におけるマネジメント 7) 看護実践における倫理的判断 8) 意思決定支援 9) 家族支援 6. 経過別の考え方 1) 急性期 2) 周術期 3) 慢性期 4) 終末期	講義 GW
	10		終講試験	
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学① 医学書院			
参考文献	国民衛生の動向 厚生労働統計・国民健康・栄養調査 厚生労働省・レビューブック MEDIC MEDIA			
授業方法	講義・GWを中心に行う			
評価方法	筆記試験（90点）、課題（10点）、合計100点で評価する。 課題提出期限内に提出できなかった場合は、総合点から3点減点とする。			
履修上のアドバイス	• 自分自身の体験やグループワークから成人看護の対象を理解し、成人の看護を深めること。 • 看護学概論、人間発達学、看護と法、健康と医療と関連が深い。関連した内容を復習し臨むこと。 • 国民衛生の動向、国民健康・栄養調査の最新の統計と社会や環境に常に目を向けること。			

授業科目	成人看護学援助論Ⅴ				
担当講師	脳・神経障害をもつ対象の看護/感覚機能障害をもつ対象の看護				運動機能障害をもつ対象の看護
単位数・時間	専任教員 大谷聖子／病院に看護師として14年勤務				専任教員 須藤美香／病院に看護師として15年勤務
履修時期/時間	1 単位 30時間 2学年 後期/15時間				2学年 後期/15時間
授業目標	1. 脳・神経機能障害がある対象の看護を学び、基本的な技術を習得する。 2. 感覚機能障害がある対象の看護を学び、基本的な技術を習得する。				
授業計画	回	事前学習	内容	方法	事後学習
	1	解剖生理の復習 重要疾患ドリル(脳出血/脳梗塞)	1. 脳神経疾患の医療の動向 2. 脳神経機能障害の主な症状と看護 一脳出血/脳梗塞 【演習】上肢の三角巾固定	講義 演習	
	2		外科的治療法を受ける患者の看護 一頭部外傷	講義	
	3	重要疾患ドリル(クモ膜下出血)	1. 頭蓋内圧亢進のある患者の看護 2. 脳血管撮影時の看護 3. 脳室ドレナージを行っている患者の看護 一クモ膜下出血	講義	
	4	重要疾患ドリル(脳腫瘍)	1. 化学療法・放射線療法を受ける患者の看護 2. 終末期の看護 一脳腫瘍	講義	
	5	重要疾患ドリル(パーキンソン病)	1. 離液検査時の看護 2. 慢性期の看護 一離膜炎/パーキンソン病	講義	
	6	解剖生理の復習 重要疾患ドリル(感覚器)	1. 聴覚・平衡機能の障害を持つ対象の看護 -難聴/メニール病 2. 嗅覚機能の障害を持つ対象の看護 1) 副鼻腔炎 【演習】外用薬の与薬	講義 演習	
	7	解剖生理の復習 重要疾患ドリル(感覚器)	視覚機能の障害を持つ対象の看護 一白内障/緑内障/網膜剥離 【演習】点眼薬の与薬	講義 演習	
	8		筆記試験(50分)		
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑦ 脳・神経, 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑫ 皮膚, 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑬ 眼, 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑭ 耳鼻咽喉, 医学書院				
参考文献	医療情報科学研究所【編】: 病気がみえる vol.7 脳・神経, MEDIC MEDIA				
授業方法	講義中心				
評価方法	脳・神経、感覚機能障害の看護/運動機能障害がある対象の看護それぞれで筆記試験を行い、平均点を評価点とする。 筆記試験(100点)				筆記試験(100点)
履修上のアドバイス	脳神経、感覚器の疾病論・解剖生理学を復習し、講義に臨むこと。				既習の疾病論の内容を再学習しておくこと。 事後に国家試験問題を解き、講義の理解が深まるようにすること。

授業科目	老年看護学概論			
担当講師	教務主任 薄井美智子 ／ 病院に看護師として14年勤務			
履修時期	1学年 後期		単位数・時間	1単位 15時間
授業目標	1. 老年期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から理解する。 2. 保健・医療・福祉の動向から老年期における課題を理解する。			
授業計画	回	事前学習	内容	方法
	1		1. 老年期の理解 ライフサイクル 老年期の定義・意義/加齢と老化/老いることへの理解	講義 GW
	2		1. 超高齢社会の統計的輪郭 我が国の高齢化/高齢者のいる世帯/高齢者の健康状態 高齢者の死亡/高齢者の暮らし	講義 GW
	3		1. ライフサイクルからみた老年期…加齢変化 1)身体的側面の変化 2)精神的側面の変化 高齢者の心理的喪失 3)社会的側面の変化 2. 老年期の発達課題	講義 ワークシートのまとめ
	4		1. 高齢者疑似体験 身体活動の変化/手指の巧緻性の低下/視力・聴力の変化 日常生活への変化/事故の危険性/心理面の理解	演習 ワークシートのまとめ
	5	基礎ヘルスアセスメントの復習	1. 身体の加齢変化とアセスメント 視覚変化/聴覚変化/感覚機能変化/循環機能変化/呼吸機能変化/消化機能変化/ホルモンの変化/泌尿器・生殖器の変化/運動機能変化/比較的維持できる機能	講義 GW
	6		1. 老年看護のなりたち 1) 老年看護の定義 2) 老年看護の役割 (1)注目すべき4つの側面 (2)老年看護の特徴 (3)理論・概念の活用	講義 GW
	7		1. 高齢者の権利擁護 1) 高齢者に対するスティグマと差別 エイジズム/権利擁護(アドボカシー) 2) 高齢者虐待 3) 身体拘束 4) 権利擁護のための制度 成年後見制度/日常生活自立支援事業	講義 GW
	8		終講試験	
テキスト	1. 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学,医学書院 2. 国民衛生の動向,厚生労働統計協会(8~9月発行)			
参考文献				
授業方法	講義・GW・演習			
評価方法	筆記試験90点、課題10点 課題提出期限内に課題を提出できなかった場合は、総合点から3点減点とする			
履修上のアドバイス	グループワークや体験から少しでも対象が理解でき、看護に結びつけることができるよう一緒に学びましょう。			

授業科目	老年看護学援助論Ⅰ（高齢者の健康と生活）					
担当講師	教務主任 薄井美智子 / 病院に看護師として14年勤務 主任専任教員 和知 綾乃 / 病院に看護師として14年勤務					
履修時期	2学年 前期		単位数・時間	1単位 30時間		
授業目標	1. 老年期にある対象の健康維持のための日常生活の援助方法を理解する。 2. 老年看護の実践に必要な基礎看護技術を習得する。					
授業計画	回	事前学習	内容	方法	担当	事後学習
	1		高齢者の生活を支える看護 1) 高齢者の生活アセスメント 総合機能評価(CGA)/基本的日常生活動作(BADL)/手段的日常生活動作(IADL)/心理・情緒機能/生活環境/フレイル	講義	薄井	
	2	コミュニケーションの復習	2) コミュニケーション コミュニケーション能力のアセスメント/コミュニケーションを阻害する影響要因のアセスメント(視覚障害・聴覚障害・言語障害)/高齢者とのコミュニケーションの方法	講義	薄井	
	3	歩行・移動への援助の復習	3) 歩行・移動の援助 歩行・移動動作のアセスメント/歩行・移動動作の援助/運動麻痺のある対象者の移動援助/転倒の影響/転倒発生の要因/転倒予防 *歩行介助の実際	講義 演習	和知	
	4	食生活への復習	4) 食生活と摂食・嚥下障害の援助 食生活のアセスメント/嚥下能力、嗜好性、環境をふまえた食生活の援助/嚥下障害のある対象者の食事の援助	講義 演習	和知	
	5		5) 低栄養・脱水症の看護 加齢による脱水症の病態と要因/脱水症予防の援助/多職種との協働による栄養管理	講義	和知	
	6 7	排泄の援助の復習	6) 排泄 排泄のアセスメント/排泄能力の変化に応じたケア用具を用いた援助/便秘・下痢の病態と要因/便秘・下痢の予防と援助 *摘便(モデル人形を使用した演習)	講義 演習	和知	
	8 9	清潔の援助の復習(陰部洗浄・おむつ交換)	7) 清潔と身だしなみ 清潔行為のアセスメント/更衣動作のアセスメント/入浴行動に伴う危険性、負担をふまえた援助/義歎のケア/衣生活の援助/搔痒症の予防と援助	講義 演習	和知	
	10	活動・休息と睡眠への援助の復習	8) 活動と休息 活動と休息のアセスメント/生活リズムの調整/活動を高める援助(レクリエーション)/廃用症候群の病態と要因/廃用症候群予防のための援助/睡眠を促す援助	講義 演習	薄井	レクリエーションの資料収集・企画書作成
	11		9) 社会参加 社会参加のアセスメント/生きがいがもてる身近な場所への参加への援助 10) 性(セクシュアリティ) セクシュアリティのアセスメント/健康なセクシュアリティへの援助	講義	薄井	
	12 13	事例を読み課題に取り組む	看護過程の展開1 1) 事例に基づいた展開① (情報の整理・アセスメント・関連図)	演習	薄井	指定用紙まとめ
	14		レクリエーションの実際 *仮設デイサービスセンター設置 *模擬患者参加	演習	薄井	演習シートまとめ
	15		筆記試験(50分)		薄井・和知	
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学、医学書院 任和子/秋山智弥【編集】:根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術、医学書院					
参考文献	福地義之助:高齢者ケアマニュアル、照林社 レビュー・ブック、MEDIC MEDIA *その他隨時紹介					
授業方法	講義・演習形式					
評価方法	筆記試験(90点)、課題レポート(10点)、合計100点で評価する。課題提出期限内に提出できなかった場合は、総合点から3点減点とする。					
履修上のアドバイス	高齢者は身体機能の低下や何らかの障害を持っているため、健康レベルを維持し生きがいを持ちながら生活できるよう援助する事が必要です。ここでは、1年次に学んだ高齢者疑似体験、基礎看護学技術を振り返り、加齢に伴う身体的機能の変化を踏まえた基本的な援助方法を学びましょう。					

授業科目	小児看護学目的論			
担当講師	専任教員 知々田 綾 / 看護師として26年勤務			
履修時期	2学年 前期		単位数・時間	1単位 30時間
授業目標	1. 小児の保健・福祉行政を学び、小児看護の役割と社会資源の活用を理解する。 2. 小児各期の日常生活を学び、その援助方法を理解する。 3. 子どもの健康障害の特性に応じた看護の方法を学び、小児基礎看護技術を習得する。			
授業計画	回	事前学習	内容	方法
	1		1. 小児の養育と看護 1)排泄 2)睡眠・休息 3)清潔 4)衣服の着脱 5)子どもの遊びの発達と援助	講義
	2			
	3			
	4		子どもの栄養/離乳/食育	講義
	5		1. 小児と家族を取り巻く社会 2. 学童期に起こりやすい健康問題と援助 (食生活/食育/学校生活/子どもを取り巻く社会/問題行動と対応/児童福祉施設/学校保健) 3. 思春期の成長発達に応じた生活への支援	講義
	6		1. 予防接種 2. ワクチンスケジュール	講義 ワクチンスケジュール
	7		1. 家族の特徴とアセスメント	講義 GW
	8		1. 乳幼児の環境調整 2. 子どもに起こりやすい事故の特性と事故防止 3. 乳児期のヘルスアセスメント	講義 GW 事例のアセスメント
	9		1. 幼児期のヘルスアセスメント	講義 GW 事例のアセスメント
	10		1. 健康障害をもつ小児と家族の看護 2. 入院中の小児と家族の看護 3. 外来における小児と家族の看護	講義
	11		1. ヘルスアセスメントに必要な技術 1) コミュニケーション技術/プレパレーション 2) バイタルサインの測定	講義 演習
	12	看護技術のワークシートをまとめ る	1. 小児の特徴を踏まえた看護技術 2. 検査処置を受ける小児と家族の看護 1)バイタルサインの測定 2)フィジカルアセスメント/身体計測 3)吸引 4)吸入 5)酸素療法 6)経管栄養法 7)検体採取・抑制(採血/採尿/腰椎穿刺/骨髓穿刺) 8)与薬(経口与薬/点滴静脈内注射) 9)排泄の援助(綿棒刺激) 10)清潔の援助(陰部洗浄)	
	13			
	14			演習
	15		筆記試験 50分	
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論/小児臨床看護総論 小児看護学①, 医学書院 山元恵子【監修】:写真でわかる小児看護技術, インターメディカ 厚生労働統計協会:国民衛生の動向, 厚生労働統計協会			
参考文献	山元恵子【監修】:写真でわかる小児看護技術, インターメディカ レビュー ブック, MEDIC MEDIA			
授業方法	講義・GW・演習			
評価方法	筆記試験(90点)、課題レポート(10点)、合計100点で評価する。課題提出期限内に提出できなかった場合は、総合点から3点減点とする。			
履修上のアドバイス	小児看護の対象を理解した上で、実際の看護について学ぶ。復習した上で授業に臨みましょう。			

授業科目	精神看護学概論			
担当講師	専任教員 芳賀洋平／病院に保健師として7年勤務			
履修時期	1学年前期～後期	単位数・時間	1単位	20時間
授業目標	1. 精神の構造と機能について理解する。 2. 精神看護とその対象について理解する。 3. 精神看護の目的と役割を理解する。 4. 精神医療の変遷と法律・制度について理解する。			
授業計画	回	事前学習	内容	方法
	1	シラバス・カリキュラム構造図の確認	1. 精神の健康とは 2. 精神保健における3つの予防概念 3. 人間の心の諸活動	講義
	2		4. 精神障害の治療と歴史 5. 精神の健康に関する普及啓発 1) 逸脱とスティグマ 2) 世界から見た日本の精神医療の現状	講義
	3		6. 心のしくみと人格の発達 1) 自我の機能 2) 防衛機制 7. 回復（リカバリー）を支える力	講義
	4		8. 日常生活における危機〈クライシス〉 9. 災害時地域精神保健医療活動 1) 災害時の精神保健医療活動 2) 災害時の精神保健初期対応	講義
	5		10. 全体としての家族 1) 家族の多様性 2) 家族の役割関係 3) システムとしての家族 4) 家族への介入と支援	講義
	6		11. 精神科領域で必要な法律と制度 1) 権利擁護に関する法律と制度 2) 医療を受けるための法律と制度 3) 生活を保障するための法律と制度 4) 法律・制度における課題 5) 入院患者の処遇 6) 隔離・身体拘束 7) 記録と法的責任	講義
	7	看護者の倫理 綱領の学習	12. 精神障害がある患者の理解 13. 精神病棟における倫理	講義
	8	公衆衛生学「公衆衛生活動」「保健行政」を学習する	14. 精神保健医療に関する社会資源 1) 精神保健福祉サービスの実際 2) 精神保健福祉センターの役割 3) 保健所の役割 4) 市町村の役割	講義
	9		15. 看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス 1) 感情労働としての看護 2) 看護師の感情ワーク 3) 看護における共感と感情労働の代償 4) 感情労働を生きのびるために	講義
	10		終講試験	
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学①, ② 医学書院			
参考文献	梅本堯夫：心理学 心のはたらきを知る, サイエンス社 太田保之/藤田長太郎【編】：精神看護学 精神保健 第3版, 医歯薬出版 松下正明/櫻庭繁【編】：精神看護エクスペール 17 精神看護と法・倫理, 中山書店 大西暢夫：ひとりひとりの人 僕が撮った精神科病棟, 精神看護出版 三宅薰：行って見て聞いた精神科病院の保護室, 医学書院			
授業方法	講義中心			
評価方法	終講試験 90点 課題 10点 合計 100点 課題提出期限内に提出ができなければ総合点より3点減点			
履修上のアドバイス	1. これまでの自分や自分の生活を結びつけて考え理解を深める。 2. 新聞やニュースで報道される精神の問題や精神保健福祉の動向について興味・関心を寄せ、そこから自己の考えたことを整理しておく。			

授業科目	精神看護学対象論							
担当講師	専任教員 芳賀洋平 / 病院に保健師として7年勤務							
履修時期	2学年 前期		単位数・時間	1単位 15時間				
授業目標	1. 精神の構造と機能について理解する。 2. 精神看護とその対象について理解する。 3. 精神の健康問題を理解する。							
授業計画	回	事前学習	内容	方法				
	1	シラバスの確認 カリキュラム構造図のチェック	1. 精神看護とは 2. 精神看護の対象 3. 精神看護学とは 4. 心のケアと現代社会	講義				
	2	テキスト精神看護の基礎「不安と防衛」について読む	5. 精神の健康とは 6. 人間の心のはたらき 1) 間の心の活動 2) 人格の発達 3) 防衛機制	講義	人間の心の働きと防衛機制についてまとめる			
	3	既習した人間発達学の「ライフサイクルと発達」について復習する	4) 危機理論とストレス理論 5) ストレスへの対処 6) 心的外傷 7) 危機を乗り越えるための支援と力	講義				
	4		7. 日常生活における危機 8. 災害時地域精神保健医療活動 1) 災害時の精神保健医療活動 2) 災害時の精神保健初期対応	講義	それぞれの場における精神問題についてまとめる			
	5		9. 全体としての家族 1) 家族の多様性 2) 家族の役割関係 3) システムとしての家族 4) 家族への介入と支援	講義				
	6		10. 看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス 1) 感情労働としての看護 2) 看護師の感情ワーク 3) 看護における共感と感情労働の代償 4) 感情労働を生きのびるために	講義				
	7	公衆衛生学「公衆衛生活動」「保健行政」を復習する	11. 精神保健医療に関する社会資源 1) 精神保健福祉サービスの実際 2) 精神保健福祉センターの役割 3) 保健所の役割 4) 市町村の役割 12. 心の健康に関する普及啓発	講義	精神保健福祉に関する各組織の役割や活動内容、国の施策についてまとめる			
	8	筆記試験 (50分)						
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学①, 医学書院 厚生労働統計協会:国民衛生の動向, 厚生労働統計協会							
参考文献	梅本堯夫:心理学 心のはたらきを知る, サイエンス社 太田保之/藤田長太郎【編】:精神看護学 精神保健 第3版, 医歯薬出版							
授業方法	講義中心							
評価方法	終講後に筆記試験 (100点) を実施する。							
履修上のアドバイス	1. これまでの自分や自分の生活を結びつけて考え方理解を深める。 2. 新聞やニュースで報道される精神の問題や精神保健福祉の動向について興味・関心を寄せ、そこから自己の考えたことを整理しておく。							

授業科目	在宅看護論対象論				
担当講師	主任専任教員 稲川 恵子／訪問看護ステーションに看護師として6年、病院で10年勤務				
履修時期	2学年 前期		単位数・時間	1単位 15時間	
授業目標	1. 在宅における療養者と家族、地域社会について説明できる。				
授業計画	回	事前学習	内容	方法	事後学習
	1		1. 在宅看護とはなにか 1) 在宅看護論誕生の背景 2) 公衆衛生看護学からの変遷 3) 在宅ケア		
	2	「国民衛生の動向」より年齢別 人口、死因、医療費の動向を確 認	1. 在宅看護の背景 1) 在宅看護に対する社会のニーズの 高まりの背景	講義 GW	人口動態のま とめ
	3		1. 在宅看護の背景 2. 在宅療養者の権利保障 1) 個人の尊厳 2) 自己決定権 3) 個人情報の保護 4) 成年後見 5) 虐待の防止	講義	基本的人権、個 人情報、成年後 見、高齢者虐待 のまとめ
	4	難病	1. 訪問看護の対象者 1) 高齢者の理解 2) 認知症 3) 難病 4) 小児	講義	
	5	既習科目的家族 について	1. 家族の理解 1) わが国における家族の変遷 2) 現在のわが国の家族の特徴 3) 新しい家族への転換 2. 看護学における家族の定義	講義	
	6		1. 理論を用いた家族の捉え方 1) 家族システム理論 2) 家族発達理論 3) 家族ストレス対処理論	講義	事例のアセス メント
	7		1. 高齢者を介護する家族の理解 1) 在宅看護の対象者としての家族 2) 家族の捉え方 3) 家族アセスメント 2. 地域社会の理解	講義	
	8		筆記試験（50分）		
テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論、医学書院				
参考文献	押川眞喜子【監修】：写真で分かる訪問看護、インターメディカル 国民衛生の動向				
授業方法	講義・GW				
評価方法	筆記試験（100点）で評価する。				
履修上の アドバイス	在宅医療のニーズが高まり、看護の場が広がっています。療養者は、入院中の患者のとらえ方 とどのような違いがあるのか、なぜ家族を理解する必要があるのか考えながら臨みましょう。				

授業科目	暮らしと健康					
担当講師	主任専任教員 稲川恵子／訪問看護ステーションに看護師として6年、病院で10年勤務					
履修時期	1学年 前期		単位数・時間	1単位 15時間		
授業目標	1. 人々の日常における価値や意味の体験に触れ、地域で生活する人々とその暮らしを理解する。 2. 人と人がつながって生きていることの大切さに気付き、自分自身が地域住民の一員であることを理解する。 3. 地域の特性を理解し、地域の生活環境が健康に与える影響を理解する。					
授業計画	回	事前学習		方法	担当	事後学習
	1	地域・在宅看護のイメージ	1. 人々の暮らし 1) 子どもを生み育てる 2) 学ぶ 3) 働く 4) 病を治す 5) 老いとともに生きる 6) 最後を迎える 7) 自分の生活力をチェックしよう	講義	専任教員	
	2	ライフコース		講義	専任教員	
	3		2. 私たちの暮らしを支えているつながり 1) 家族 2) 仲間 3) 近隣の人々 4) 学校や職場 5) 支え合い (地域おこし協力隊、消防団、わくわく子育て教室、赤ちゃん広場、模合など)	演習	専任教員	コミュニティについてレポート
	4	地域の情報収集	3. 地域のなかにある暮らし 1) 地域の生活環境が健康に与える影響の理解 (1) 環境 ①文化的環境 ②社会的環境 ③自然環境 (2) コミュニティアズパートナーモデルとは (3) 健康課題 2) 学校周辺を調べよう (1) コミュニティアズパートナーモデル (2) 地区踏査計画	講義	専任教員	計画書の作成
	5 6	地区踏査計画書	2) 学校周辺の地域の特徴 1) 地区踏査 (1) 母子 (2) 高齢者 (3) 障害者 2) 分析・課題のまとめ	演習	専任教員	資料作成
	7 8		3) 発表 「母子・高齢者・障害者の地域における地域特性に応じた健康課題」 4) むらしと健康 (1) むらしと地域のかかわり (2) むらしや健康に影響を与えるもの	演習 講義 演習	専任教員 専任教員	
						地域住民の一員としてできること
テキスト	1. 系統看護学講座 地域・在宅看護論①地域・在宅看護論の基盤. 医学書院					
参考文献	1. 事例から学ぶ地域・在宅看護論. 医学書院 2. 地域特性がみえてくる地域診断 地域包括支援センターの活動充実を目指して. 医葉葉出版 3. 基礎からわかる地域・在宅看護論. 照林社					
授業方法	講義・演習					
評価方法	発表内容・発表資料(グループ評価)、地区踏査資料(個人評価)を100点で評価する。					
履修上のアドバイス	暮らしと健康を理解するために白河市に出向く演習があります。グループで協力し、計画的に準備を進めていくことが必要です。1人1人グループメンバーであることを意識して臨みましょう。					

授業科目	家族を支える看護				
担当講師	教務主任 矢上紀子／病院に看護師として 15 年勤務 専任教員 知々田綾／病院に看護師として 26 年勤務・専任教員 芳賀洋平／病院に保健師として 7 年勤務				
履修時期	1 学年 後期		単位数・時間	1 単位 15 時間	
授業目標	1. 家族看護の意義と看護の対象である家族を理解する。 2. 家族看護の実践プロセスを理解し、その人らしく生活していくための支援の方法を学ぶ。				
授業計画	回	事前学習	内容	方法	担当
	1	家 族 と は	1. 家族の理解 1) 家族とは (1) 家族についての考え方 (2) 現代の家族の特徴 (3) 健康障害をもつ家族員を抱えた家族 (4) 家族看護を必要としている家族	講義	矢上
	2	事 例 の 家 族 に つ い て	2. 家族看護の目的・目標 1) 家族の捉え方 (1) 家族システム理論 (2) 家族発達理論 (3) 家族ストレス対処理論 (4) 家族のアセスメント ジェノグラム(家系図)、エコマップ	講義 演習	矢上
	3	事 例 の エ コ マ ッ プ 作 成	3. 看護の対象としての家族 1) 家族の病気のとらえ方・理解 2) 家族の苦悩、情緒的反応の実際 3) 家族の生活への影響、療養マネジメント 4) 家族のニーズ5) 病気・病者・家族の様相	講義 演習	矢上
	4		4. 家族と援助関係を形成する 1) 援助関係とは 2) 看護者に求められる基本的姿勢 3) 家族とのコミュニケーションにおける留意点 5. 在宅療養者の家族への看護 1) 家族への看護アプローチ (1) 家族のセルフケアの支援 (2) 家族の役割調整 (3) 家族関係の調整・強化、家族内コミュニケーションの活性化 (4) 家族の対処行動や対処能力の強化 (5) 社会資源の活用	講義 演習	矢上
	5		5. 事例 1) 在宅療養している小児の家族看護	講義 演習	小児領域 担当教員 知々田
	6		2) 在宅療養している精神障害者の家族看護	講義 演習	精神領域 担当教員 芳賀
	7		3) 在宅療養している高齢者の家族看護	講義 演習	矢上
	8		終講試験		矢上
テキスト	1. 家族看護学 家族のエンパワーメントを支えるケア. MC メディア出版				
参考文献	1. 家族看護を基盤とした地域・在宅看護論 第5版. 日本看護協会出版会 2. 家族看護学 理論と実践. 日本看護協会出版会				
授業方法	講義・演習				
評価方法	筆記試験(100点)で評価する。				
履修上の アドバイス	看護の対象である家族の捉え方、そして、その人らしい生活のために看護師はどのように介入することが必要か、考えていきましょう。				

授業科目	看護技術総合評価					
担当講師	教務主任 矢上 紀子／病院に看護師として15年勤務 専任教員 柳沼美穂子／病院に看護師として15年勤務 専任教員 大谷 聖子／病院に看護師として14年勤務					
履修時期	3学年 後期		単位数・時間		2単位 30時間	
授業目標	1. 既習の知識・技術を統合し、対象の状態に応じた安全・安楽な援助技術を習得する。					
授業計画	回	事前学習	内容	方法	担当	事後学習
	1		1. 演習のねらい、演習方法、事例紹介・プレテスト	プレテスト	柳沼	技術練習
	2	DVD 視聴 技術練習	経管栄養法 1. チューブ挿入 2. 栄養剤の注入 3. 注入前・後の管理	技術試験	大谷	振り返り
	4	DVD 視聴 技術練習	膀胱留置カテーテル法 1. 膀胱留置カテーテルの挿入 2. 膀胱留置カテーテル挿入中の管理	技術試験	大谷 矢上	振り返り
	5					
	6	DVD 視聴 技術練習	輸液ライン等が入っている患者の寝衣交換 1. 事例に沿った寝衣交換	技術試験	大谷 矢上	振り返り
	7					
	8	DVD 視聴 BLS/ALS 事前レポート	救急時のケア 1. 気道確保 2. 人工呼吸 3. 胸骨圧迫心臓マッサージ 4. AED 操作	演習 チェック	矢上	振り返り
	9					
	10	DVD 視聴	点滴静脈内注射 1. 留置針の穿刺 2. 滴下中の管理	技術試験	大谷 矢上	振り返り
	11					
	12		シミュレーション学習オリエンテーション 1. シミュレーション学習の意義 2. 事例および場面設定 3. 多重課題への対処、 4. 多重課題発生時の対処の原則	講義	柳沼	
	13		多床室における検温(ペーパーシミュレーション)	演習 GW	柳沼	ワークの振り返り
	14	ペーパーシミュレーションの確認	多床室における検温 実技発表	演習	柳沼	
	15					
テキスト	新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ, メチカルフレンド社 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術, 医学書院					
参考文献	《DVD》安全で確かな与薬①(インターメディカ) 急変時のアセスメントと看護(インターメディカ)					
授業方法	講義・演習形式、演習チェック					
評価方法	4つの技術項目について、それぞれ技術試験を行う。技術試験の配点は、プレテスト10点・技術の実際90点。各技術試験の平均点数が評価点となる。 また、課題提出期間内に提出できなかった場合は、総合点から3点減点とする。					
履修上のアドバイス	臨地実習で積極的に技術見学・実施の経験を積み、この科目に臨みましょう。 各技術は、DVD 視聴、技術練習を事前学習とし、計画的にグループ内で協力して取り組みましょう。					